

受け継がれる 東京理科大学のDNA

～ビジネスを通して持続可能な社会へ～

かさほら ふみよし
笠原 文善
株式会社キミカ 代表取締役社長
(1979年工学部工業化学科卒)

ほんま あさき
本間 有貴
More-ing 代表
(2021年工学部工業化学科卒)

わたなべ しょう
渡邊 聖
More-ing 副代表
(工学研究科機械工学専攻在学中)

6月17日号では、東京理科大学140年の歩みを明治期の文学を通して紹介した。全4回のうち2回目となる今回は、「実力主義」に象徴される理科大の教育と、それにより受け継いだ理科大のDNAについて、志をもって活躍する卒業生らに語ってもらう。世代や背景は異なりつつも、共通する「持続可能な社会への貢献」という姿勢から、教育研究理念「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」と「科学的精神」が浮かび上がる。

— 笠原さんは海藻に含まれるアルギン酸を抽出、販売する株式会社キミカの経営者として、本間さんと渡邊さんは、栄養価の高い植物「モリンガ」によるソーシャルビジネスを展開するMore-ing (モアイング) を起業し活躍されていますが、大学での思い出や、そこでの学びや経験が現在に活かされていると感じることはありますか？

笠原：私が印象に残っているのは関門制度*ですね。もともと文系だったので、厳しいこの制度にはとても苦労しました。社会に出ると様々な困難にぶつかりますが、懸命に試行錯誤を繰り返すうちに解決の糸口が見えてくるということを感じます。当社の事業であるアルギン酸の研究を通じて独学で博士号を取得した父が「理科大は実力主義だから良い」と話していましたが、実力というのは身に付けた知識の量だけでなく、その知識の生かし方や、関門を突破するためにもがき苦しんで何とか解決したという体験に培われた行動力ですかね。振り返ってみると、理科大を勧められた父に感謝しています。

本間：私も関門制度には苦しみましたが、笠原さんがおっしゃるような試行錯誤や、友人と教えあったりしながらなんとか解決していった経験が財産になっています。また、在学中に、世界的なソーシャルビジネスのコンテストを通じて、ネパールに現地調査に行く機会をいただき、それがきっかけでMore-ingを起業しました。起業後も試行錯誤の連続ですが、大学での経験が糧になっています。理科大には、「自分の手で何かしたい」と考え、自ら率先して行動する学生がたくさんいて、仲間を見つけることができたのもよかったです。

渡邊：学部時代のレポートでは、求められる質・量ともかなりハードで苦労した記憶があります。もちろんそれらは教科書や論文のコピーではなく、きちんと自分で調べて自分の言葉で書くよう指導され、それが自分の力になったと感じます。事実を尊重しながら真理を究めていく科学的精神が身に付いたと思います。

笠原：おっしゃるとおりです。自ら率先して行動することや、事実やデータに基づき、ときにはそれが都合のよく



葛飾キャンパス

ない結果であっても物事の本質を見極める科学的精神、それらを提案・改善に結び付けることは社会人にとって重要な素養ですね。実は当社でも新人にレポートを課していますが、きちんと自分で調べているかを見抜かなければならず、見る方も大変なのだと実感しました。渡邊さんがおっしゃった指導は、先生たちの熱意の証だと思います。

— 現在、取り組まれている事業について教えてください。

笠原：父が療養のために滞在した千葉の海辺で、打ち上げられた大量の海藻を見て「これを何かに利用できないか」と考えて創業したのが当社の始まりでした。チリを拠点に、現地



葛飾キャンパス図書館

の住民の方々に雇用し海岸に漂着した海藻を集め、アルギン酸を生産しています。

本間：私が代表を務めるMore-ingは、モリンガという南アジアや東南アジア、アフリカに分布する栄養価の高い植物を活用したソーシャルビジネスを展開しています。先進国におけるモリンガの需要喚起による貧困の解消や、現地での消費を促進することによる栄養状況の改善が目的です。

渡邊：私はMore-ingの「持続的に、入手可能なもので人々の命と生活を救う」というビジョンに共感し、副代表として活動しています。

— 皆さんの事業は、近年注目されているSDGsに通じるものがあります。笠原さんは、SDGsという言葉ができる以前から、そのような活動に取り組んでいらっしたんですね。

笠原：以前は、不足分を海中から刈り取ることもありましたが、計画的に

在庫を持つことにより、刈り取りによる環境破壊を防ぎ、現地の方々の生活向上と安定化に寄与することができました。当社のこうした取り組みや地域貢献活動が評価されて、2020年には第4回ジャパンSDGsアワード特別賞を受賞しました。
渡邊：理科大の教育研究理念に「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」とありますが、これは現在のSDGsをはじめとした持続可能な社会の構築につながる考えだと思います。笠原さんの事業はまさにその具現化ですね。
本間：私たちMore-ingの活動にも、このDNAが受け継がれているのを感じます。ともに高め合える仲間たちとの出会いも含め、理科大で培われた力を最大限に生かして、社会の課題解決に少しでも貢献していけるよう、前進していきたいと思っています。

— 関門制度・実力主義に代表される厳しくも丁寧な教育が時代を超えて引き継がれ、その根底には、大学の教育研究理念が息づいていることがうかがい知れました。持続可能な社会の構築は、喫緊の課題であり重要性を増すばかりですが、理科大が140周年のテーマとして掲げる「理念を貫き、進化する。」のとおり、今後も大学の理念を体現し、社会に貢献する人材の輩出に期待したいと思います。

TUSフォーラム2021

タイトル：東京理科大学が拓く
SDGs新時代
—自然・人間・社会と
これらの調和的発展に向けて—

日時：2021年12月4日(土)
実施方法：YouTubeライブ配信

● 大学創立140周年を記念し、本学のご出身であるノーベル受賞者・大村智博士にご講演いただくとともに、本学の最先端の研究を紹介します。

● 詳細は、改めて本学HPに掲載いたします。

<https://www.tus.ac.jp/>

お問い合わせ 東京理科大学 広報部広報課
TEL 03-5228-8107 koho@admin.tus.ac.jp

